

# 2

## 日本における先進事例



### 2-1 金沢市公共レンタサイクル「まちなり」から見てくると

金沢市都市政策局交通政策部歩ける環境推進課 小村 正隆

#### 「まちなり」とは

金沢市では、藩政期からの城下町の形態が残るまちなかエリアにおいて、自動車ではなく徒歩や公共交通で移動できるようにすることを目指している。「まちなり」はその交通手段の一つであり、市民や来街者の気軽な足として、欧米を中心に導入が進んでいる自転車シェアリングシステムを2012（平成24）年3月24日にスタートした。（<http://www.machinori.jp/>）

実施主体は金沢市だが、運営主体は公募プロポーザルを経て（株）日本海コンサルタントとなっている。

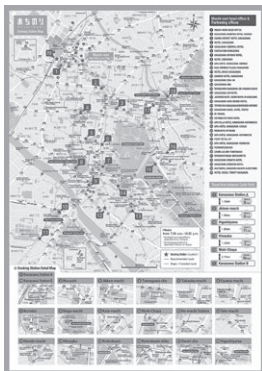
現在、貸出・返却を行う「ポート」は19か所あり、各箇所に設置している無人の路上端末機においてタッチパネルを操作し、クレジットカードに



東山ポート

より最初の登録から貸出まで最短1分で利用できるようにしている。また、まちなり事務局および市内のホテル・旅館等35軒において、現金での1日利用にも対応している。

さらに、路上端末機のタッチパネルは、日本語のほか、英語、韓国語、中国語にも対応していると同時に、同言語の案内パンフレットを作成（写真参照）しており、外国人利用者にも気軽に使用していただけるようにしている。加えて、十間町、香林坊および東山のポートには公衆無線LANを設置し、インターネットアクセス環境の向上にも寄与している。



英語版まちなりパンフレット

#### 走るところも一緒に

まちなりを推進するにあたっては、自転車の走行空間の確保やルール遵守なども併せて実施しなければならない。安全で快適にまちなかを巡ることは難しいことである。金沢市では、2011（平成23）年3月に「まちなか自転車利用環境向上計画」を策定し、「はしる」「とめる」「つかう」「まもる」の自転車利用シーンごとに具体的な施策を展開している。



自転車走行指導帯の整備

特に「はしる」において、幹線道路ではなく、金沢の歴史的な風情の一つでもあり、かつ市民の自転車ルートとして利用されている細街路に自転車走行指導帯（写真参照）を整備している。このことにより、歩行者の安全確保とともに、ドライバーに対しても自転車への注意喚起を促している。

またルール遵守については、まちなり自転車のハンドル中央部に簡単なルールを記載しているが、自転車ヘビーユーザーである高校生と中学生を対象に、「自転車ルール・マナー検定」を実施し、基本的に遵守すべき事項を知らせる取り組みも行っている。

#### 単なるレンタサイクルに終わらない

まちなりは、単に自転車を利用者に貸すだけでは事業として成り立たず、運営主体が中心となって、さまざまな取り組みを行っている。

一つには、自転車後輪ドレスガードへの協賛事業者名の掲載である。広告というよりも環境に優しい取り組みに対する企業のCSRの一環として活用されている。

二つには、商店街等との連携である。まちなり自転車を商店街のサマーバーゲンのPRツールとして

使用したり、まちのりユーザーに周辺商店街の店舗で利用できるクーポン券を配布するなど、双方にメリットのある取り組みを行っている。

三つには、まちのりサポーター制度がある。ポート周辺の町会、商店街、企業等がポートの簡単な清掃を行ったり、ボランティアでポート周辺の案内などをしたり、まちの人々がまちのりを支える仕組みを作っている。

最後に、まちのり事務局でのサービスである。コインロッカーに入らない大型の荷物預かりや、地元



商店街等との連携  
キャンペーン、イ  
ベント

老舗菓子舗とコラボしたせんべいをはじめ、Tシャツやポストカードなどのオリジナルグッズの製作・販売などを行っている。無人で利用してもらうだけでなく、有人での対応を組み合わせることで、おもてなしを具現化している。

## 今後に向けて

およそ2年後の2015年春、北陸新幹線が金沢まで開業し、東京から約2時間半で来ることができるようになる。これを一つのターニングポイントとして、単なる交通手段ではなく、まちと人をつなぐコミュニケーションツールとしての価値を高め、利用者、商業者、まちのいずれもが笑顔になれるような仕組みとしていきたい。